

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 名古屋市立八熊小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 454-0013
愛知県名古屋市中川区八熊1-8-30

E-mail : yaguma-e@nagoya-c.ed.jp

Website : http://www.yaguma-e.nagoya-c.ed.jp/

児童生徒数：男子 146 名 女子 143 名 合計 289 名
 児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 実践の内容

(1) 「堀川」での体験を位置付けた環境学習

環境領域の学習においては、全学年、地域を流れる「堀川」を教材として取り組んだ。子どもたちは、堀川に関わりながら、季節と生き物、汽水の堀川、堀川と生き物、校庭と堀川の生き物などについて体験を通して学んだ。このことで、身近な堀川を科学的な視点で捉えることができ、環境についての科学的な見方や考え方が育ってきている。

3年生では、理科「しぜんのかんさつをしよう」の単元と関連を図りながら、校内・学区の公園の生物調査をきっかけに、堀川や上流の黒川でも生物を調査した。これらの体験を通して、生物は、その周辺的环境と関わって生息していることを捉えさせることができた。総合的な学習の時間のカリキュラムを見直すことで、子どもの「もっと調べたい」という思いを大切に、体験を保障する時間を確保することができた。



【黒川で生物を探す子どもたち】

(2) 「車」での体験を位置付けたエネルギー学習

エネルギー領域の学習においては、現代の生活に不可欠な「自動車」に着目し、学年の学習内容に応じた動力で動くミニカーや、本校独自に開発した「人が乗れる車（ビッグカー）」を教材とした。ミニカーを使った問題解決を通して捉えた「科学の知」をビッグカーに活用して、身近に走る「自動車」を動かす技術とつなげて考えていくことができる学習を進めている。

4年生では、ミニカーを使って、乾電池の直列・並列つなぎについて学んだ「科学の知」を生かし、「乾電池でビッグカーを動かすことができるか」について話し合った。その後、実際にビッグカーを使って乾電池の数やつなぎ方を変えながら試すことで、学習したことを活用して考えた自分の予想は正しかったという確証を得たり新しい発見をしたりすることができた。



【ビッグカーを走らせる子どもたち】

2 成果と課題

「堀川」「車」での体験を位置付けた環境・エネルギー学習により、よりよい環境作りの見通しを考えるきっかけとすることができたり、様々なエネルギーの存在に気づき、利用されていることを捉えることができたりした。

また、今年度は、子どもの主体性を生かし、学びをより広めたり深めたりするために、理科・生活科だけでなく、総合的な学習との関わりも含めた環境・エネルギー学習のカリキュラムを再編成しながら実践を進めてきた。その結果、子どもの「もっと調べたい」という思いを大切に、体験を保障する時間を確保することができた。

しかし、問題解決を進める中で、その土台となる「基礎学力」が不足しているため、思考が深まらなかつたり、発展させられなかつたりした場面も見られた。課題解決学習を軸に、そのための基礎学力を身に付けさせることも重点にして、「環境」「エネルギー」の分野に限らず、実践する分野を広げ、教科・領域とのつながりを意識しながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていきたい。

